

アイデアの宝船

特集 『みんなの日本語 初級』

『みんなの日本語 初級』を使って、 学習者が「できること」、「できなければならないこと」、 教師が「留意すべきこと」

—「日本語教育の参照枠」を参照し考える—

元東京日本語学校(長沼スクール)

日本語講師 神部秀夫

『みんなの日本語 初級』を使用している皆様に本稿でお話ししたいのは大きく次の二つです。

『みんなの日本語 初級』 修了時点で学習者ができること

1課から50課までの各課の文型、文法の教え方などは、『教え方の手引き』をはじめ、参考になるものは少なくありません。しかし、『みんなの日本語 初級Ⅰ』(以下、『初級Ⅰ』)、『みんなの日本語 初級Ⅱ』(以下、『初級Ⅱ』)がそれぞれ修了した時点の一つの区切りとして、それまでに習った文型、文法、語彙などをフル活用することによって、学習者は「何ができるのか」「何ができなければならないのか」といったものを示した指標、具体例はほとんど見かけません。そこで『みんなの日本語 初級』を、『初級Ⅰ 本冊』の「1課から25課まで」と『初級Ⅱ 本冊』の「(25課までを含む)26課から50課まで」との2段階に分けて、それぞれの時点でこれらを考えて例示したいと思いました。ポイントは「既習の文型、語彙を組み合わせる」「修了時点までの文型、文法をできるだけ多く取り入れる」ということです。例示するものは、復習教材の一助にもなると思いますし、到達度試験としての会話テストの参考などにもなるかと思えます。

『日本語教育の参照枠』と『みんなの日本語 初級』

もう一つは、「日本語教育の参照枠」(以下、「参照枠」と『みんなの日本語 初級』との関係についてです。令和3年10月に「参照枠」が文化庁より明示されてから、教師はそれにどう対応するのが日本語教育の現場で問われています。『みんなの日本語』を使用する

- 『みんなの日本語 初級』を使って、学習者が「できること」、「できなければならないこと」、教師が「留意すべきこと」……………1
- いっしょに練習しませんか……………5

教師は、「参照枠」をどう捉えていけばよいのか、現場で学習者にどのように教えたらいのかを考えてみたいと思います。

▶既習の文型、文法を組み合わせることの有効性

まず、一つ目の『みんなの日本語 初級』Ⅰ、Ⅱの修了時点で「学習者ができること」についてお話しします。次の二つの文を見てください(以下、「課」は『みんなの日本語 初級』の各課を指します)。

・息子は先週退院したばかりなので、まだスポーツができません。(46課[練習B 6例])

・先週給料をもらったばかりなのに、もう使ってしまいました。(46課[練習B 7例])

「彼は3月に大学を卒業したばかりです。」(46課[文型2])のように、46課では、「〈Vた形〉ばかり」を学習項目の一つとして習います。つまり、「〈Vた形〉ばかり」は46課の新出文型です。その46課の[練習B]では、先に見たように既習の「ので(39課)」、「のに(45課)」を組み合わせた練習が提示されています。

・さっき昼ごはんを食べたばかりなので、おなかがいっぱいです。

・さっき昼ごはんを食べたばかりなのに、もうおなかがすきました。

「〈Vた形〉ばかりなので…」と「〈Vた形〉ばかりなのに…」とでは、後に続く文が全く違ってきます。それを考えて文を作ることで、新出文型の「〈Vた形〉ばかり」の意味理解も深まりますし、また既習の「ので」「のに」の使い方も復習できて定着が図れます。繰り返しますが、新出文型の意味や機能を理解したうえで運用する、そして既習の文型の復習も兼ねて定着を図るという大変効果的な練習例です。もう一つ例を出します。

テレーザちゃんは何になりたいですか。

……医者になりたいです。(19課[例文7])

「〈イ形容詞〉くなります / 〈ナ形容詞・名詞〉になります」は、19 課の新出文型の一つです。「～になりたいです」は、19 課の新出文型「～になります」と 13 課で習った既習文型「～たいです」とを組み合わせたもので、これも新出文型と既習文型を組み合わせる定着を図る大変効果的な例だといえます。

今『みんなの日本語 初級 本冊』の中から例を二つ提示しました。皆さんにお話ししたいのは、『みんなの日本語 初級 本冊』に載っていないくても、こうした例をご自身で考えて現場でやってみましょうということです。

例えば、先の「～になりたいです」についても、『初級 I』(25 課まで)の修了時点なら次のように練習できます。

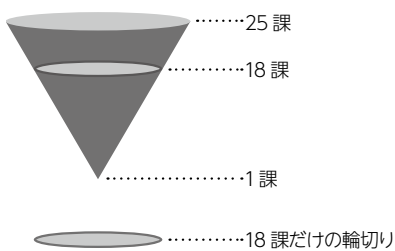
シンさんは何になりたいですか。

……エンジニアになりたいです。(19 課の時点)

……車を作るエンジニアになりたいです。(25 課の時点)

19 課の時点では、単に「エンジニアになりたいです」としか言えませんでしたが、22 課で名詞修飾節を習いますから、『初級 I』が修了した時点では、「何のエンジニアになりたいのか」、「車を作るエンジニアになりたいです」と言うことができます。また教師として、『初級 I』の修了時の段階では、そこまで言えるよう指導していくことが望まれます。それが文型積み上げ方式というものです。

各課ではそれぞれの新出文型や文法を教えると思いますが、その課だけに限定された「輪切り」だけのような練習になってしまうのは、不十分ですし、もったいないです。学習者との「やり取り」の中で、それまでに習った文型や文法を組み合わせたり、できるだけ習った文型や語彙を盛り込んだりすることによって、より厚みのある練習ができます。そうすることで定着を図るのがより良い方法だと思えます(イメージ図をご覧ください)。



例えば、18 課を教えるときは、18 課だけでなく、既習の 17 課までの文型や語彙を意識して授業を組み立てることが大切です。18 課だけの「輪切り」にならないようにします。

実際にお考えいただくための参考例を、いくつか提示してみます。

【例 1】食べ物について話す

『初級 I』修了時点

T: おすしを食べたことがありますか。(19 課)

S: はい、あります。おいしかったです。

T: では、おすしを作ったことがありますか。

S: いいえ、ありません。

T: 作りたいですか。私はおすしを作ることができます。(18 課)

S: そうですか。おすしの作り方を教えてください。(14 課)

『初級 II』修了時点

T: いろいろなおすしがありますね。何が好きですか。

S: まぐろやサーモンが好きです。

T: しょうゆをつけますか。

S: はい、しょうゆをつけて食べます。(34 課)

T: たまごのおすしも好きですか。

S: はい、好きです。

T: しょうゆをつけて食べますか。

S: いいえ、何もつけなくて食べます。(34 課)

19 課で経験の有無を問う文型を習います。授業では単に一問一答に終わらず、できるだけ「やり取り」を続けたいものです。「食べたことがあるか」だけではなく、「作ったことがあるか」を聞いて、14 課の「作り方」を引き出しています。

『初級 II』の修了時点では、34 課[練習 A 3]を使いながら話を展開することができます。また、『初級 I』の修了時点では、「作りたいです」となりますが、『初級 II』の修了時点では、40 課[練習 A 3]の「経験がない、初めてやる」意味を持つ「～てみます」を使って、「(おすしを作ったことはありません)。作ってみたいです。」と言わせるよう指導したいです。

【例 2】休みの許可を得る

『初級 I』修了時点

S: すみません、明日休んでもいいですか。(15 課)

T: ええ、いいですよ。どうしましたか。

S: 明日、国から両親が来ます。空港へ迎えに行きたいです。(13 課)

T: そうですか。わかりました。

『初級 II』修了時点

S: 先生、ちょっとお願いがあるんですが……。(48 課[練習 C 3])

T: はい、何ですか。

① S: 明日休ませていただけませんか。(48 課)

T: どうしてですか。

S: 明日国から両親が来ます。空港へ迎えに行きたいです。(13 課)

② S: 明日両親を迎えに行くので、休ませていただけませんか。(39 課、48 課)

③ S: 明日空港へ両親を迎えに行かなければならぬので、休ませていただけませんか。(17 課、39 課、48 課)

『初級 I』の段階では、「明日休みたいです」「明日休んでもいいですか」のように、日本語の表現として少しこなれていない言い方になってしまいますが、いたしかたありません。『初級 II』の段階では、48 課[練習 A 6]を使うのが適切です。そして話の切り出しとして「ちょっとお願いがあるんですが…」と 48 課[練習 C 3]で示された言い方を使っています。許可を得るとき、依頼するとき、相手に初めにどんな言葉をかけたらよいかは難しいものです。それも含めて教えたいです。「もしもし、田中ですが、今いいですか」(46 課[例文 1])なども話し始めるときの表現の一つです。こうした言い方は、[練習 A][練習 B]にはほとんど出てきません。各課の[例文][練習 C]についてもよく見ておいて、使える表現はぜひ取り入れて練習していただきたいです。

また①、②、③と、順に文型の組み合わせが多くなっている文を

示しました。①では、「～いただけませんか」と、48課の新出文型のみを使っています。そして休む理由を相手に聞かれてから答えています。②では、「ので」を使って、理由も含めて許可を得るために話しています。③では、その理由が本人にとって大切であることを言いたいので17課の「～なければならない」を組み合わせています。

実際の場面では、①、②、③のどれでもよいのですが、50課を修了した時点では、③のレベルまで話そうと思えば話すことができることをお伝えしたくて提示しました。主に留学生を対象に教えている私の経験をもとにして言えば、全ての学習者が③までの言い方ができるとは申しません。しかし、①→②→③とステップを踏んでいけば、かなりの学生が③まで話せるようになります。また③まで言えるように一生懸命話そうとします。できるかどうかは別にして、『初級Ⅱ』の修了時点で、教師として学生に③のレベルまで求めることを試みることは必要ではないでしょうか。

【例3】自分の部屋の様子を話す

『初級Ⅰ』修了時点

私の部屋は、広くて明るいです。駅から遠いですが、家賃は安いです。毎月25日までに3万円払わなければなりません。(17課)シェアハウスですから、部屋の中にキッチンがありません。ですから、料理を作ることができません。(18課)

『初級Ⅱ』修了時点

私の部屋の壁に映画のポスターが貼ってあります。机は、窓のそばに置いてあります。(30課)机の上に恋人にもらった人形が飾ってあります。冷蔵庫の中にいつもりんごジュースが入っています。(29課)

まず、8課や16課での形容詞を接続する文型を使っています。そして25課まで修了していれば、それだけで終わらせてはいけません。家賃や設備のことを聞いて、17課[例文5]の「までに」、[例文3]の「なければなりません」、18課[例文4]の「ことができます」などの既習文型も引き出しましょう。そうすることで話が広がります。

『初級Ⅱ』では、29課[練習A1]の「〈自動詞で形〉います」、30課[練習A1]の「〈他動詞で形〉あります」などを使って表現しています。そして、「机の上に恋人にもらった人形が飾ってあります」と、連体修飾も使っています。学習者が「机の上に人形が飾ってあります」と言ったら、「いいですね。その人形はもらいましたか。買いましたか。」というように、さらに人形を説明する言葉を加えるよう促しましょう。それが教師の役割だと思います。

【例4】自己紹介をする

『初級Ⅰ』修了時点

初めまして、グアンです。ベトナムから来ました。どうぞよろしくお願いします。趣味はサッカーをすることです。(18課)日本へ来てから、あまりサッカーをする時間がありません。(16課、22課)家族は父と母と姉と弟の5人です。父は野菜を作っています。母はレストランで働いています。(15課)

『初級Ⅱ』修了時点

友達とサッカーをするのは、本当に楽しいです。(38課)今、大学に入るため

に日本語を勉強しています。(42課)今は、まだ日本語のニュースが読めません。早く読めるようになりたいです。(36課)

『初級Ⅰ』では、18課[練習A4]の「趣味は、～ことです」、16課[練習A2]の「～から」、22課[練習A6]の「～時間がありません」、15課[練習A4]の「～ています」などを使っています。これだけでも立派な自己紹介といえるでしょう。言い換えれば、『初級Ⅰ』の修了時点では、少なくともこれくらいは話せるよう指導することが必要です。

『初級Ⅱ』では、さらに詳しく38課[練習B1]の「のは、～です」、42課[練習A1]の「～ために」、36課[練習B4]の「～ようになりたいです」も使うようにします。繰り返しですが、『初級Ⅱ』修了時点の指導では、それまでに習った文型や文法をできるだけ使わせるようにしていきましょう。しかし、学習者は自分からはなかなかそれできません。ですから、「何のために日本語を勉強していますか」「何ができるようになりたいですか」などと質問しながら、まとまりのある「発表」ができるように導いていきます。

【例5】家族のことを話す

『初級Ⅰ』修了時点

T: ご主人はどんな人ですか。

S: 背が高く、ハンサムです。料理が上手です。(16課)

『初級Ⅱ』修了時点

T: ご主人はどんな人ですか。いい人ですか。

S: ええ。背が高くハンサムだし、やさしいし、それにイタリア料理を作るのが上手なんです。(26課、28課)

T: とてもいいご主人ですね。

S: ええ、でも、帰る時間がもう少し早ければ、もっといいと思います。(35課)

『初級Ⅰ』と『初級Ⅱ』の修了時では、質問が同じでも答え方がこのようになってきます。もう一つここでお伝えしたいのは、先ほど少し触れた各課の[例文]、[練習C]をもとにして練習するやり方です。これらには発話のヒントになるものが多くあります。例えば次の[例文]を見てください。

日本の生活はどうですか。

……とても便利です。でも、もう少し物価が安ければ、もっといいと思います。(35課[例文3])

お気づきのように、『初級Ⅱ』の最後の「でも、帰る時間がもう少し早ければ、もっといいと思います。」は、35課[例文3]を応用したものです。

各課の1ページ目の[文型]の下には、[例文]がいくつも載っています。それを土台にして学習者の個別状況や話題に合わせて使っていくのも『みんなの日本語 初級』の効果的な活用方法です。

『みんなの日本語 初級』では、[文型]と[練習A]にばかり注目が集まりがちですが、[例文]と[練習C]の中にも大切な表現や文型が含まれていますので見逃さないようにしましょう。

▶「参照枠」と『みんなの日本語』

ここで二つ目の「参照枠」と『みんなの日本語』について述べていきたいと思います。こんなことが言われています。

- ・『みんなの日本語 初級』を使っていても、「参照枠」に対応した授業はできないのではないかな。
- ・「参照枠」には、『「できること」に注目する』とある。『みんなの日本語』には、Can do という項目が入っていないから使うことに抵抗がある。

しかし、これらは誤解といってもよいです。『みんなの日本語 初級』を使って「参照枠」に対応した授業は十分できますし、Can do についても心配しなくても大丈夫です。その理由は、「参照枠」で示された A2、A1 レベルの Can do は、『みんなの日本語 本冊』の中に、全てと言ってよいほど含まれているからです。

その事例として「参照枠」の中から、「話すこと(やり取り)」を取り上げ、「基礎段階の使用者」のレベルである A2、A1 の Can do としてどんなものがあるのか、そして、『みんなの日本語 初級』がその Can do にどう対応しているのかを「→」で示します。

■A2(6)【会話】

挨拶、別れ、紹介、感謝などの社会的関係を確立することができる
→ 25 課【会話】 ミラーさんが転勤の挨拶をする

■A1(4)【会話】

紹介や基本的な挨拶、いとまごいの表現を使うことができる
→ 7 課、8 課【会話】 訪問と辞去の場面

■A2(37)【情報の交換】

習慣や日常の仕事について質問し、答えることができる
→ 28 課【例文3、4】 仕事や休日について話す

いかがでしょうか。特に目新しい課題とかこんな場面は想定したことがないなどということはないと思います。Can do の記載はレベル別に大変数が多く、細分化されています。しかし、『みんなの日本語 初級』を使用している教師にとっては、「この Can do は、この課のこの箇所をもとに使えばよい」とすぐ分かるはずですよ。

もう一つ大切なことは参照枠の捉え方です。「買い物をする」「行き先までの乗り方を聞く」「職場で上司の指示を受ける」などのように、Can do を、「学習者が遭遇する困難な場面に対応する」「学習者が乗り越えたい課題をクリアする」といった「課題達成型」だけに限定して考えないほうがよいです。

「参照枠」の言語教育観では、「日本語学習者を単に『言語を学ぶ者』ではなく、『新たに学んだ言語を用いて社会に参加し、より良い人生を歩もうとする社会的存在』」と捉えています。「買い物ができる」「誘う、断る」などのタスク、機能別の課題も、もちろん大切ですが、「普段接する人との付き合いがきちんとできる」「社会生活を送るうえで近隣の住民、職場、学校などの友人、知人と友好的な関係を築く」ための言語活動も「参照枠」の理念に基づくものと考えられます。それらは、「おしゃべり」「雑談」といったものに近いかも

しません。自分の習慣を述べたり、職場での様子を話したり、家族の紹介をしたり、ときには家族についての愚痴をこぼしたりなど。そうした会話を重ねることによって「社会的な人との付き合い」は深まっていくのではないのでしょうか。

『みんなの日本語 初級』の執筆協力者の田中よね先生は、こうしたやり取りのある講座で「交流会話(人との関係を温めるおしゃべり)」と言っていました。こうした談話能力を身につけることも「参照枠」を参照して日本語教育を実践することと言えます。

整理すると、「参照枠」の Can do については、「課題達成型」もあれば、「人との関係を温めるおしゃべり」の型もあり、また両者を兼ねたものもあると考えてください。

本稿の前半で『初級Ⅰ』修了時点『初級Ⅱ』修了時点での会話例を五つ提示しました。【例2】の「休みの許可を得る」のは「課題達成型」と言えましょう。また【例1】【例3】【例5】は、「社会的に人との交流がきちんとできる、人との関係を築くための言語活動(おしゃべりや雑談)」の例として捉えてよいかと思います。【例4】の「自己紹介をする」は両方を兼ねていると言えます。つまり、『みんなの日本語』は「参照枠」の Can do について「課題達成型」にも、また「人との関係を温めるおしゃべり」の型のどちらにも対応ができるのです。

ところで、【例5】では、連れ合いのことを聞かれ、いわばのろけているわけですが、最後に愚痴や不満といったものを述べています。こうした会話、やり取りができれば人との付き合いは、よりうまくいくと思います。

先にも触れましたが、この文は特に見逃されがちな【例文】を土台にしています。『みんなの日本語』の【例文】には、こうした「人との交流が深まる」ようなヒントとなるもの、すなわち「アイデアの宝船」が多くあります。三つ紹介します。

初めて好きになった人のことを覚えていますか。

……ええ。彼女に初めて会ったのは小学校の教室です。

彼女は音楽の先生でした。(38 課【例文6】)

お見合いはどうでしたか。

……写真を見たときは、すてきな人だと思いましたが、会って、がっかりしました。(39 課【例文1】)

わたしたちが初めて会ったのはいつか、覚えていますか。

……昔のことなので、もう忘れてしまいました。(40 課【例文3】)

いかがでしょうか。ユーモアもあり、何か心に残る微妙な感情がわくのではないのでしょうか。これらを「人との付き合いを深める」「人との関係を温めるおしゃべり」の型の Can do として学習者のやり取りの土台に使ってはいかがでしょう。どのようにアレンジするかは皆さんの腕にかかっています。またそれを準備するのは楽しいのではないのでしょうか。皆様のご活躍をお祈りします。

いっしょに練習 C ませんか

『みんなの日本語』執筆協力者 田中よね

50年以上昔のことですが、学生だったある日、友人との待ち合わせに5分遅れて行きました。どこか広いロビーのようなところで。小走りで「ごめ〜ん」「Hi. How are you? Why don't you sit down?」「え?ええ?」会った途端どうしてわたしが座らない理由を聞くんדר? 変な人。「Be...becau...because I don't feel like sitting」「???」。

わたしは英文科の学生でした。To be, or not to be, that is the question. などを読んで得意がっていました。が、実は、大学に入るまでに生の英語を聞いたこともなく、外国人と話したこともありませんでした。昭和30年代ってまだそんな時代だったのです。昭和30年代の大阪ってそんな田舎だったんです。習った文法通りだったら、「Why ~」が来たら「Because ~」で答えるのが当然だと思っていました。それがまさか、「Why don't you sit down?」が「座ったら」だったなんて!

20年ほどのち、日本語教師になりました。訓練が終わってひとり立ちした頃、ある学習者から「友達に『このごろ調子悪そうだね。病院へ行ったらどう?』って言われました。『~たら』はifですね、先生。『もし病院へ行ったら、どうですか』ってどういう意味ですか」と質問されました。なんとか「もし~たら」と関連づけて説明しようと試みましたが、彼女は頑として「わかりません」。頭を振りながら去って行きました。嗚呼! あのととき「『~たらどうですか』は助言や提案の表現です。例えば、……」ときっぱり答えられれば格好よかったですのに……。

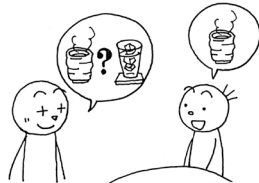
『みんなの日本語 初級』練習 C

『みんなの日本語』は文法シラバスで編まれています。文法を簡単なものから少しずつ複雑なものへと積み上げていっています。『教え方の手引き』にくわしく紹介されていますが、既習の文型と語彙で、新しい文型を導入して、練習 A で構造を理解し、練習 B でその文型にふさわしい言葉を入れ替えて、文型を定着させます。ここまでで十分習得してしまう優秀な学習者もいますが、それだけでは試験には対応できるけれども、実際には使えない、というのが普通の人です。そこに、練習 C があるのです。

練習 C では人と「伝えたいこと」のキャッチボールをします。ここでは A と B で習ったはずの応答とは違う応答がなされる場合があります。

例えば、第 12 課練習 C 2

- A: お茶はいかがですか。
B: はい、ありがとうございます。
A: 熱いのと冷たいのとどちらがいいですか。
B: 熱いのをお願いします。



「~と~とどちらがいいですか」に対しては「~のほうがいいです」と答えるのが第 12 課練習 A 4、練習 B 6 で習った文法です。が、ここでは「熱いをお願いします。」と応えています。練習 C は人と円滑なコミュニケーションができるようにする練習です。練習 A、練習 B の延長線上の文法置き換え練習ではありません。練習 C をするにあたっては、意識の切り替えが必要です。

練習 C では、与えられるキューは文字による言葉ではなくイラストです。イラストは、人によって読み取り方感じ方が違います。きっちり正しく置き換えないといけないという縛りから自由にならないと、何を言えばいいか戸惑います。

例えば、第 12 課 C 1-1

- A: きのお初めてお寿司を食べました。
B: どうでしたか。
A: とてもおいしかったです。



上のイラストとやり取りが示された後、下のイラストが示されます。さて、このイラストを見てあなたなら「はじめて『何をした』」と答えますか。日本人で歌舞伎を見たことがある人なら、「歌舞伎を見た」と言うでしょう。でも、歌舞伎を知らない人にとっては実に奇妙な絵です。学習者からこんな答えがありました。

- ・きのお初めて白い髪の人を見ました。
- ・きのお初めておじいさんに会いました。

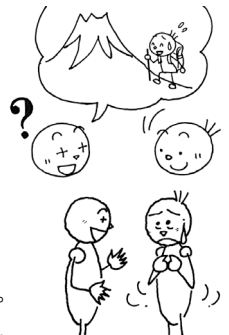


これでも「どうでしたか」「とてもきれいでした/ハンサムでした」で会話は成立します。初めての経験としておじいさんを見たことを伝えるのはちょっと変かもしれませんが、それはそれでいいと思います。ちなみに「歌舞伎」は第 9 課で既習ですが、『みんなの日本語 初級I 絵教材 CD-ROM ブック』で紹介している絵は右の通りです。

練習 C では、そのやり取りの前後にもう 1~2 往復やり取りを考えて話を発展させてみるという楽しさを味わうこともできます。

例えば、第 19 課練習 C 1

- A (日本人): 富士山に登ったことがありますか。
B (学習者): ええ、先月登りました。
A (日本人): どうでしたか。
B (学習者): 楽しかったですが、大変でした。
A (日本人): そうですか。
B (学習者): A さんは登ったことがありますか。
A (日本人): いいえ、ありません。一度登りたいです。
来年、もう一度いっしょに登りませんか。
B (学習者): え?もう一度?すみません。もう一度、登りたくないです。
A さん、富士山はととてもとても大変ですよ。



練習 C やり取りの内容(初級I)

練習 C のやり取りが、ターゲットとなっているのはどの文型かではなく、何について話しているのかという見方でまとめてみました。

第 1 課

- 1 名前と国(地域)を言って自己紹介をする
- 2 名前を聞き違いされてそれを直す
- 3 人に紹介されて、初対面の挨拶をする

第 2 課

- 1 言葉を添えて、人にお土産を渡す
- 2 何かわからない物を持っている人に、それが何か尋ねる
- 3 忘れ物の持ち主を探している人に、その持ち主かどうかを申し出る

第 3 課

- 1 探している場所(例: トイレ、エレベーターなど)がどこにあるか尋ねる
- 2 出身地(国、町)を尋ねられ、答える
- 3 買いたい物がどこの製品か、いくらかを尋ねる

第 4 課

- 1 施設の営業時間と休みの日を探ねる
- 2 行事(イベント)の開始、終了時刻を探ねる
- 3 就寝時間などの日常生活についてのおしゃべり

第 5 課

- 1 日曜日の予定についてのおしゃべり
- 2 旅行土産を渡しながら、旅行についてのおしゃべり
- 3 どこからいつ日本へ来たかの質問に答える

第 6 課

- 1 日曜日どう過ごしたかのおしゃべり
- 2 買い物や食事をする場所などの日常生活についてのおしゃべり
- 3 人を誘って、待ち合わせの約束をする

第 7 課

- 1 日本語の言い方がわからない物を何と言うか聞く
- 2 身につけている物をほめられて、だれにももらったか話す
- 3 日常のこと(例: 昼ごはん)がまだだったらいっしょにしようと誘う

第 8 課

- 1 仕事、生活について尋ねられ、答える
- 2 店員に自分の見たい物を見せてくれるように頼む
- 3 旅行先の感想を話す

第 9 課

- 1 好きかどうか尋ねて誘う
- 2 日常に使うちょっとした物を貸してほしいと頼む
- 3 理由を言って誘いを断る

第 10 課

- 1 銀行などの施設がどこにあるか尋ねる
- 2 店で買いたい物がどこにあるか尋ねる
- 3 探している人がどこにいるか尋ねる

第 11 課

- 1 レストランで注文する
- 2 家族の人数、構成を言う
- 3 旅行する人に手段と所要時間を聞く

第 12 課

- 1 日本での初めての経験と感想を話す
- 2 飲み物を選択肢を示して勧める
- 3 北海道旅行の時期についてアドバイスをもらう

第 13 課

- 1 インタビュー番組で今何が欲しいか答える
- 2 自分の状況(例: 喉が渇いた)を訴え、喫茶店に誘う
- 3 週末何をしたかのおしゃべり

第 14 課

- 1 ちょっとしたこと(例: ペンを借りる)を頼む
- 2 親切な申し出をする(例: 荷物を持つ)
- 3 集合時間にその場にはいない人について、どこで何をしているか伝える

第 15 課

- 1 無料サービスの物をもらうときにことわりを言う
- 2 日常生活の情報(例: いい歯医者)を求める
- 3 インタビュー番組で出身や職業を言う

第 16 課

- 1 きのおどこで何をしたか順を追って話す
- 2 日本語学習をいつ始めたか話す
- 3 自分の出身地がどんなところか話す

第 17 課

- 1 医者からの指示を受ける
- 2 しなければならないことを言って、誘いを断る
- 3 病院の人の指示を聞く

第 18 課

- 1 レストランである行為(例: 喫煙)が可能かどうか尋ねる
- 2 趣味について話す
- 3 会社で仕事の順序について指示を受ける

第 19 課

- 1 日本での経験の有無とその感想を話す
- 2 休みに何をしたいか話す
- 3 季節の挨拶とその季節に何をしたいか話す

第 20 課

- 1 親しい人に、日本文化の初めての経験とその簡単な感想を話す
- 2 親しい人に、好き嫌いを尋ね、勧めたり誘ったりする
- 3 親しい人に、身の周りのちょっとしたことへの手助けを頼む

第 21 課

- 1 物事について意見を求められ、答える
- 2 聞き逃した館内放送を人に聞いて確認する
- 3 お祭りや観光地について、感想を共有する

第 22 課

- 1 パーティーにいる人の名前をそっと知人に尋ねる
- 2 事務所で探し物(例: 書類)の場所を尋ねる
- 3 成人式でインタビューを受け、将来の希望を話す

第 23 課

- 1 お祝い事にどんなプレゼントがいいか日本の習慣を尋ねる
- 2 コピー機の使い方を尋ねる
- 3 銀行などの所在、行き方を尋ねる

第 24 課

- 1 身につけている物、持ち物をほめられ、だれにどんな機会にももらったか話す
- 2 パーティーの準備をだれに手伝ってもらったか話す
- 3 ホームステイで家族のだれに何をしてもらったか話す

第 25 課

- 1 相手の状況や天候に配慮を示しながら人を誘う
- 2 同僚に、席を外している間の対応を指示する(例: 来客を知らせる)
- 3 天気が悪くても予定された行事が行われるかどうか確認する

練習 C 共通の場面、機能、事柄で括る!

「やり取りの内容」一覧を見ていると、同じ場面、同じ機能で括りたくなる共通項が見えてきて、分類してみました(重なりがあります)。

1. 自己紹介
2. 買い物
3. レストラン、喫茶店
4. 建物・施設の所在
5. 会社
6. インタビューを受ける
7. 誘う・断る
8. 助力を頼む・申し出る
9. 欲しい情報を得る
10. 交流会話(人との関係を温めるおしゃべり)
 - ①日常生活について
 - ②旅行に関連して
 - ③褒められて、それをきっかけに
 - ④日本の生活、経験などについて

注:「練習 C 場面、機能、事柄で括ったリストの内容」はウェブサイトで公開。以下、第●課 練習 C △は●-△と表す

「7. 誘う・断る」のグループをみてみましょう。

- 6-3 人を誘って、待ち合わせの約束をする
- 7-3 日常のこと(例:昼ごはん)がまだだったらいっしょにしよう誘う
- 9-1 好きかどうか尋ねて誘う
- 13-2 自分の状況(例:喉が痛いた)を訴え、喫茶店に誘う
- 25-1 相手の状況や天候に配慮を示しながら人を誘う
- 9-3 理由を言って誘いを断る
- 17-2 しなければならぬことを言って、誘いを断る

「誘う」が5つ、「断る」が2つあります。「誘う」をよく観察すると5つのうち、第6課では何の前触れもなく誘っていますが、それ以外の四つは、何かの前振りがあって誘うということをしています。よく考えてみれば、誘うときって、何かきっかけがあって、というか、作ってというか、何かがないと誘えないものなのですね。

それぞれ「もう～ましたか」「好きですか」「～たいです」「もし～たら」の文型を学ぶ課に出てくるものです。文型にとらわれていたら、「何かきっかけを作って人を誘う」会話と結びつくなんて考えもつきません。文型練習の延長線上に練習 C があると捉えるのではなく、「誘う」練習をするつもりでやってみるというのも面白いでしょう。

ちなみに、初級Ⅱになると、どんなきっかけで誘うようになるのだろうと、「初級Ⅱ練習 C やり取りの内容」をみてみると、なんと、初級Ⅱで誘う練習はただ一つ、31-1のみ。それも「疲れたね。喫茶店で休もう」と、初級Ⅰ 13-2 パターンの友達版にすぎません。

ちなみついでに、初級Ⅱのほかのやりとりはどうなっているのだろうとみてみましたら、説明したり、弁解したり、忠告したりされたりと、人間関係や場面も大人になり、複雑になっていました。人は大人になると、単純ではなくなるのですね。

練習 C いろいろに使う

各課の「学習の流れ」どおりに、練習 AB & C をするというのでは別に、課が終わったあと時間を置いてもう一度、全く別ものとして、復習の時間を設けてやってみるというのはどうでしょう。本冊の「会話」と組み合わせ、やり取りを展開していくのも良いかもしれません。

案1 ストーリーを作る

1) 初めての買い物

- ・友だちと買い物に行きます
- ・デパートで売り場(例:かばん)がどこにあるか聞きます(3-1)
- ・店員に自分の見たい物を見せてくれるように頼みます(8-2)
- ・買いたい物がどこの製品か、いくらか尋ねます(3-3)
- ・買います
- ・買物のあと、おなかがすいたのでレストランに入ろうと提案します(13-2)
- ・レストランで注文します(11-1)
- ・待っている間、お互いの家族についておしゃべりをします(11-2)

2) 忙しいミラーさん

- ・ミラーさんは朝からとても忙しいです。
- ・仕事の順序について指示を受けます(18-3)
- ・探し物の場所を尋ねます(22-2)
- ・コピー機の使い方、トラブルへの対処方法を教えてもらいます(23-2)
- ・席を外している間の対応を佐藤さんをお願いします(25-2)



最後に忙しかったミラーさんを慰めるように第6課の会話「いっしょに行きませんか」を持ってきて、佐藤さんに花見に誘われてほっとするのでもいいでしょう。

3) 新しい出会い

- ・パーティーに行きます。着物の女性と外国人の女性が楽しそうに会話しています(第19課会話)
- ・彼らがだれであるかをそっと知人に聞きます(22-1)
- ・知人に紹介されて、初対面の挨拶をします(1-3)



第19課の会話イラストを利用します。まず、会話のパーティー場面で幕が開きます。主人公3人の右奥に2人の男女がいます。その2人の会話が22-1です。次にそのうちの女性のほうが第19課会話の主人公3人に男性を紹介します。その後、どんなドラマが展開するか楽しみです。

案2 事柄によるやり取りを作る

1) 友達と話す

『みんなの日本語』で学習すると、第1課から第50課まで(第20課以外)基本は「です・ます」体なので、工場などの実習に行った際に、「話し方が変だ」と言われることがあると聞きます。同年代の社員と話すときには普通体で話せるように、第20課で普通体を学

習したあと、友達との会話の話題としてふさわしいものを選び、つないでみてはいかがでしょうか。

- 4-3 就寝時間などの日常生活についてのおしゃべり
6-1 日曜日どう過ごしたかのおしゃべり
12-1 日本で初めての経験と感想を話す
19-2 休みに何をしたいか話す

2) インタビュー

「6. インタビューを受ける」にグルーピングされているのは主に日本に滞在する外国人へのインタビューとなっています。必ずしも若い課から並べる必要はなく、インタビューの流れを考えて構成します。

- 15-3 インタビュー番組で出身や職業を言う
13-1 インタビュー番組で今何が欲しいか答える
16-2 日本語学習をいつ始めたか話す
21-1 物事について意見を求められ、答える



手順は、クラスのレベルやどの時点で復習するかによりますが、①それぞれの練習Cのイラストシートを見せて、うまく誘導しながら会話を思い出させます。②それを白板に書いていきます(実際に書く作業は時間がかかるので、1文ずつ書かれたものを準備して、貼っていくといいでしょう)。③練習Cの一つひとつが終わった後、流れとして不必要なセリフなどを以下のように線で消して、一つの流れのあるインタビューにします。④例が出来上がると、まずはみんなできいっしょに流れを確認します。⑤実際の場合に当てはめて、ペアで練習し、発表させます。余裕のあるクラスだったら、その後学習者の側から日本人にインタビューを試みさせるのもおもしろいでしょう。

- A: 皆さん、こんにちは。「みんなのインタビュー」の時間です。
お名前は?
B: ミラーです。アメリカから来ました。
A: お仕事は?
B: 会社員です。コンピューターソフトの会社で働いています。
A: よろしくお願いします。 15-3
A: すみません。おはようテレビですが、
(ミラーさん) 今何がいちばん欲しいですか。
B: 広いうちが欲しいです。
今のうちは狭いですから。
A: そうですね。どうもありがとうございました。 13-1
A: 日本語が上手ですね。どのくらい勉強しましたか。
B: 1年ぐらいです。日本へ来てから始めました。
A: そうですね。すごいですね。
B: いいえ、まだまだです。 16-2
A: (ミラーさんは) インターネットについてどう思いますか。
B: そうですね。便利ですが、使い方に気をつけなければ
ならないと思います。
A: ワットさんはどう思いますか。
B: わたしもそう思います。 21-1

以上に「A: そうですね。どうもありがとうございました。」を加えて終わってもいいですし、もしインタビューが夏/冬/春休みの前

だったり、余裕のあるクラスだったら、19-2などを利用して次のように終わってもインタビューの締めとしてはきれいでしょ。

- A: もうすぐ 夏休みですね。
B: ええ。
A: 夏休みは 何を しますか。
B: そうですね。馬に 乗ったり、釣りを したり したいです。
A: いいですね。 19-2

そうですね。どうぞ いい夏休みを(過ごしてください)。
ありがとうございました。

上のインタビュー例の中にも見られますように、練習Cのやり取りの多くに、「そうですね」「そうですね」、「いいです」「いいですよ」「いいですね」「いいでしょう」ができます。もしそれらを練習Cから取り除いたら、その間沈黙が流れ、たちまち二人の間はぎくしゃくしてしまうでしょう。そういえば、その昔、あるアメリカ人からわたしたちと英語で話すと、とても話しにくいと言われたことがあります。相槌がないので、会話が弾まないそうです。相槌が上手に打てるって、難しく大切なスキルなんですね。

上に挙げた活用法は一つのアイデアです。人のアイデアというのは使いにくいものです。そのまま使うのではなく、その人なりにカスタマイズして利用していただけたらと思います。アイデア倒れになるかもしれませんが、倒れてみないと、良かったのか悪かったのかどこが悪かったのかわかりません。七転び八起きとまでいなくても、一度は試して転んでみてください。

Why don't you enjoy 練習C?



*特集「みんなの日本語 初級」及び、「いっしょに練習Cませんか」でご紹介した初級I・初級II「練習C やり取りの内容」「練習C 場面、機能、事柄で括ったリストの内容」はウェブマガジン 3A Plus で公開しています。みんなの使い方紹介 <https://bit.ly/ideaMinna>



Ja-Net
No. 106

季刊ジャネット
別冊

2023年7月25日発行

● 発行人 藤崎政子
● 発行所 (株)スリーエーネットワークJa-Net 編集室
〒102-0083 東京都千代田区麹町3-4

トラスティ麹町ビル2F
TEL: 03-5275-2722 FAX: 03-5275-2729

E-mail: sales@3anet.co.jp <https://www.3anet.co.jp/>

● デザイン ペーシック 畑中 猛

● 印刷 (株)ワコー

© 2023 by 3A Corporation

Printed in Japan (禁無断転載)